



品質カイゼン室の

花のソコが知りたい！

# カトレア

編



花の美しさから「蘭の女王」と呼ばれ、ひととき存在感のある「カトレア」冠婚葬祭など特別なシーンで多く使われ、上品な香りがとても魅力的です。

## ◆基本データ◆

学名： *Cattleya*

(イギリスの園芸家 William Cattley 氏から)

科属： ラン科カトレア属

原産地：中央アフリカ、南アメリカ

⇒樹や岩の上で育つ着生ラン

⇒熱帯の標高 1000~2000mの高地で

自生しており涼しい気候を好む。

✿花言葉✿ 「優美」



## ◎カトレア栽培の始まり◎

19世紀前半、ブラジルで採集植物をイギリスに送る際、梱包材に使われていた植物を育ててみたというのが、「カトレア栽培の始まり」です。

日本での栽培の歴史は、明治時代の後半からで宮廷園芸として始まりました。本格的な生産は、メリクロンの普及した 1970 年代以降です。



## ☞メリクロンとは…？

新しく伸びかけた芽の中から 1mm くらいの生長点を取り出し、無菌状態の培地の中で増やす方法。

- (メリット)・元株と同一の株を大量に得られること
- ・低価格で購入できる
  - ・基本的にはウィルスフリー

## ◆カトレア栽培◆

- (ポイント) ① 開花期が品種ごとに異なる  
② 電照とシェード(遮光)で開花調整  
③ 電照を開始する時期



### ① 開花期が品種ごとに異なる

カトレアは品種により、春咲き栽培・夏咲き栽培・秋咲き栽培・冬咲き栽培・不定期咲き栽培と開花期が異なります。

### ◎ 周年栽培・安定供給を目指して…！◎

カトレアの周年栽培は異なる品種を組み合わせることで開花期をずらし、リレー栽培を行うのではありません…。

花芽分化が日長の影響を受けやすい性質を生かし、電照とシェード(遮光)で日長管理また冷房を使用することによる温度管理で、出荷量が一定になるよう、必要な時期に多く出荷できるよう各品種・各ベンチ(栽培スペース)・各温室で開花調整を行っています。



### ② 電照とシェード(遮光)で開花調整

シェード(遮光)



電照のための電球

電照による開花調節は「抑制」が基本です。(開花を遅らせたい期間)

- ✿例えば春咲き品種では、8月中旬から3週間電照することで開花を約2か月遅らせることができます。



### ③ 電照を開始する時期

電照を開始する時期によりカトレアの成長に異なる効果をもたらします。

- 開花を**抑制**させたいとき…花芽分化**後**
- 開花を**促進**させたいとき…花芽分化**前**

#### ◎花芽分化はどうやって見分ける…？◎



品種ごとに、花芽分化のタイミングがありますが…

○の中をよーくみると、透けている部分があるのがわかります。これが、蕾です！

蕾はシースと呼ばれる、蕾を守るサヤの中で顔をだします。

成長が進むと、シースの中からくっきりとした形の蕾が飛び出し、開花となります。



#### ○採花から出荷まで○

殺菌したカミソリで花を切ります。

水揚げを行う際は切り口が空気に触れないように水の中で切り2時間以上、再度水の中で切り戻し、ウォーターピックに差し込み花を薄紙で包んでから出荷となります！

## ○病害虫○

カイガラムシの予防…バルブを包んでいる古い苞葉を取り去り薬剤散布します。  
ウィルス病対策…採花や株分け時のハサミや刃物の使いわけや消毒を行い、  
定期的な薬剤散布による防除を徹底します。

## ◆カトレアの取り扱いと日持ち◆

花卉が透けるため、切り花栄養剤は使ってはいけません。  
また、水の上がり過ぎによる「**水染み**」にも注意が必要です！！  
保管温度は8～10℃が理想的でそれ以下になると  
「**低温障害**」を起こしてしまいます。

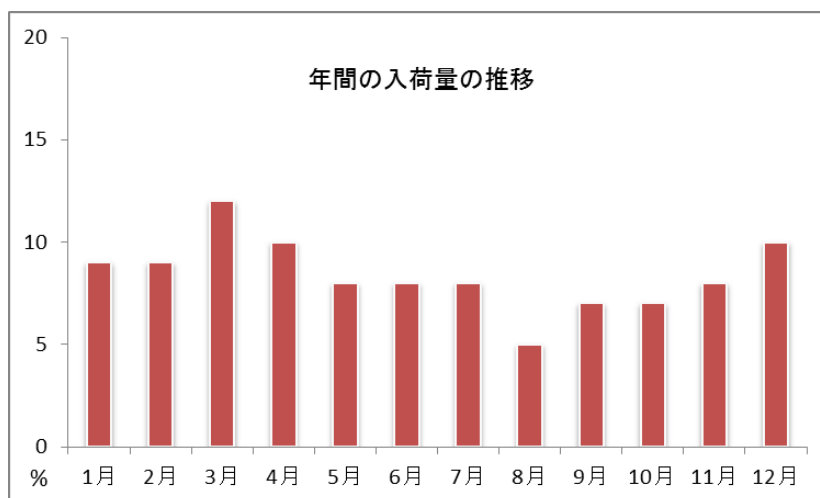
花持ちは7～14日です。  
浅水でこまめに切り戻しを行いましょう！  
カトレアはフローラルスイートの香りがとても芳しいですが、  
日にちが経つにつれて香りが弱くなります。



## ◆年間入荷量と主な生産地◆

国産のみの流通で温室で周年栽培されています。  
葬儀での需要が高いため冬から春に流通量が増え、一般的にお花屋さんには出  
回りが少ない花です。

主な生産地は **栃木県・茨城県・千葉県** です。



◆ 品種 ◆

市場では販売時、花の色だけで品種名を表示しないことが多いです。

\*カトレア ピンクやカトレア シロなど。



周年出荷や需要期に合わせた日長管理の栽培技術はもちろん、実生苗やメリクロン苗から開花まで、5~6年と長い年月を丹精込めて栽培されています。大きな花や香り豊かなカトレアはまさに「蘭の女王」にふさわしい名の魅力的な花です。さまざまなシーンでカトレアの魅力を引き出してみたいか。

<参考資料>

農山漁村分画協会 発行 「農業技術大系 花卉編 12」

穴戸・長塩 「花屋さんの花材が全てわかる アレンジ図鑑」

宇田明 桐生進著 「花屋さんが知っておきたい花の小事典」

大田花き  
品質カイゼン室

